
肉姫

ホルモンキング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

肉姫

【Zコード】

Z2987P

【作者名】

ホルモンキング

【あらすじ】

気がくるつていると言わってきた男のほんの一端。
男なりの幸せ、栄光。

そして別れ。

十人十色、当たり前という言葉に言及した作品になります。
ショートショートです

「 最高だ 」

鼻孔を刺すような臭いが立ち込める中で、男は呟いた。
薄暗い空間。周りを見れば、ぬいぐるみの綿のよう^に散乱した肉塊[。]放射を描く血飛沫[。]

誰が好き好んで、このような空間に足を踏み入れようと思つのか。

男が一步踏み出すと、それに呼応するように鳴る粘着質な音。
それは響き渡り、男の動き合わせてオーケストラとなる。それを楽しむように男は狂喜乱舞する。

「 の闇^をされた空間が、男を祝福するかのよう^に、一つの演目が始まる。 」

重力に任せしたたり落ちてゆく、血。男に降り注ぐそれは、まるで男の汗の代わりを担つてゐるかのよう^な。

舞い上がる、埃。湿氣を吸つたそれは、妖麗な光を放ちながら舞台を引き立たせるよう^で。

中央にたたずむ、人形。唯一スポットライトの当たつたそれは、微笑みを浮かべたまま男を見つめ。

男の、男による、男のための舞台は淡々と、どこか儂げに、どこか喜びに満ちて……。

誰に見られるわけでもないそれは、男の欲求が向くままに進んでゆく。

部屋に散らばる、無残な光景も、鈍く光る凶器も、申し訳なさそうに佇んでる置物も…… そのすべてが、今この時のために準備されたような一つのアートとして成り立つてゐる。

怪しげな雰囲気を微塵も感じさせない男の嬉々とした顔は、無垢な少年を彷彿させる。

微笑む人形には、どう映るのか。

いかに洗練された劇にも終わりというものは必ずある。

それには例外というものは無く、この男の舞台にもそれが言える。男は終幕すると手を取り、口づけをする。同時に遠くからは、色々な音が零れてくる。

「やつと会えたね……やつと会えたね……エリー……。ああ、僕のエリー。ずっと待っていたんだ、君が遠くに行ってしまってからずっと……ずっと一人だったんだ……。会いたかったよ、君だけに会いたかったよ……エリー……。君は汚い雌豚どもとは違う、君は僕の天使だよ。エリー……僕は君を愛している。この世の何より君を愛しているよエリー、僕のエリー僕のエリー僕のエリーボクノエリーボクノエリーボクノエリーボクノエリーボクノエリーボクノエリーボクノエリー……」

暗闇へ光がさし、怒号が飛んでくる。あまりにも無骨な音、あまりにも醜悪な光景になってしまった。

それでも男はゆがんだ笑顔を浮かべ、屈強な集団に連行されてゆく。

男の目に映るのは自らが創り出した人形。微笑みを浮かべた彼女はどこか悲しそうにも見えた。

「サヨウナラ、ワタシヲアイシタヒト」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2987p/>

肉姫

2010年12月4日22時41分発行